

第5章
複雑な発達変化をモデリングする
－非線形の発達軌跡のための
潜在成長モデル－

2015.03.02 宇佐美慧・荘島宏二郎

図5-2
2次の潜在成長モデル

本稿は
第6巻AMOS資料
を既知として
解説しています

図5-2 分析の準備手順1/2

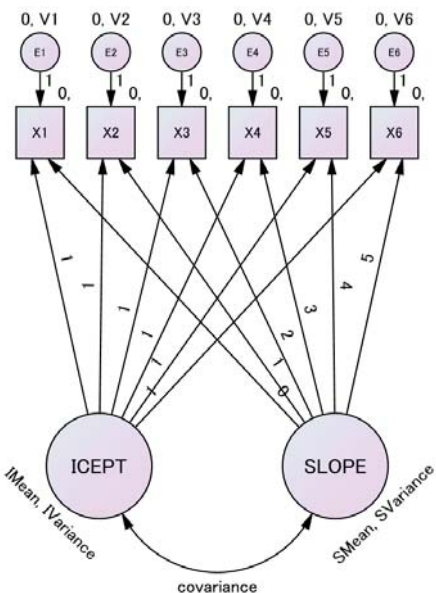
第6巻1章
Amos資料
目的1参照

1. 伴走サイトよりv07c4skill.savの保存
 - ・ 第4章の分析をしていれば、すでにできているはず
2. Amosの起動
 - ・ スタートメニューからAmos Graphics
 - ・ あるいは、デスクトップアイコンをダブルクリック

ソフトが起動したら次にパス図の作成を行う

図5-2 パス図の作成 手順1/2

第7巻4章Amos資料
図4-3の分析参照



- ① プラグイン→ Growth Curve Model
- ② 時点数を6
※ここまでは前章参照

まだパス図は未完成!

第6巻1章
Amos資料
目的1参照

図5-2 分析の準備手順2/2

1. SPSSデータファイルの指定
 - ファイル→データファイル:v07c4skill.savを指定
2. Amosファイルを名付けて保存
 - ファイル→名前を付けて保存:v07c5fig5-2.amwとして保存
3. 分析のプロパティ
 - 推定タブで平均値と切片を推定に☑
 - 出カタブで標準化推定値に☑

※上記の作業をパス図の作成より前にやっても
プラグイン→Growth Curve Modelの操作で
すべてキャンセルされます

図5-2 分析のプロパティ



推定タブの平均値
と切片を推定に☑

潜在成長モデルは、
平均構造を含む分析
なので☑が必要
プラグイン→
Growth Curve Modelの
操作でこの☑は自動的
に入るが念のため確認

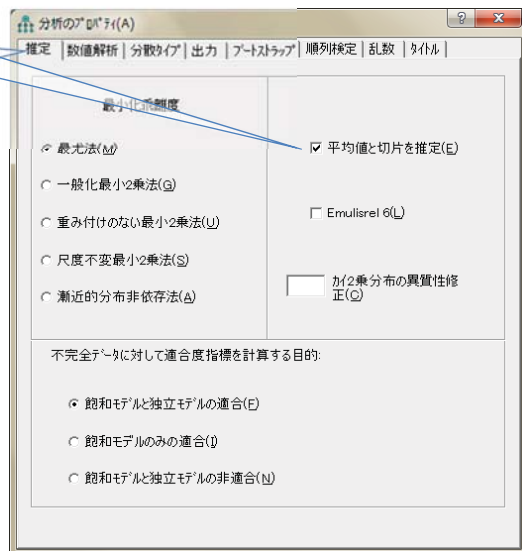
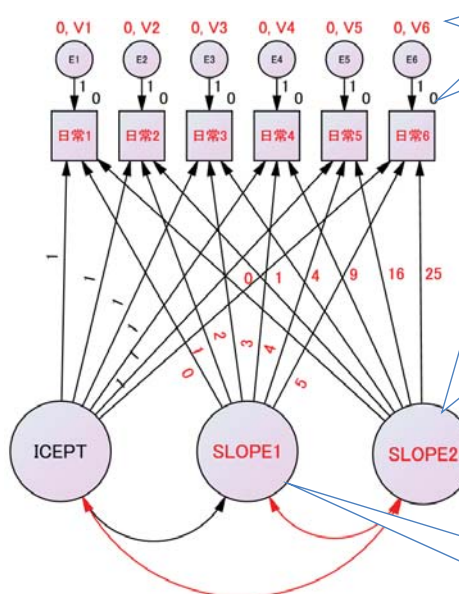


図5-2 パス図の作成手順2/2

V1~V6に



- ① 誤差分散の等値制約解除
- ② 変数名を流し込む

- ③ 潜在変数を作成して
変数名をSLOPE2に。
パス係数を0²~5²に。
- ④ 因子間共分散を追加
※母数名は
つけなくてもよい

- ⑤ 変数名をSLOPE1に
パス係数を0~5に

図5-7 分析の準備手順1/2

1. 伴走サイトよりv07c4skill.savの保存
 - 第4章の分析をしていれば、すでにできているはず
2. Amosの起動
 - スタートメニューからAmos Graphics
 - あるいは、デスクトップアイコンをダブルクリック

ソフトが起動したら次にパス図の作成を行う

図5-7 区間線形の 潜在成長モデル

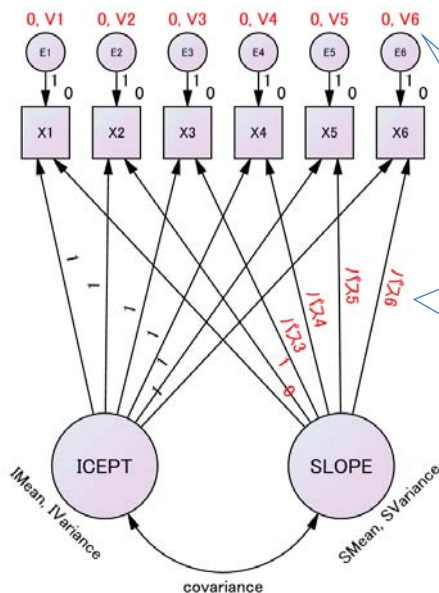
図5-7 分析の準備手順2/2

1. SPSSデータファイルの指定
 - ファイル→データファイル:v07c4skill.savを指定
2. Amosファイルを名付けて保存
 - ファイル→名前を付けて保存:v07c5fig5-7.amwとして保存
3. 分析のプロパティ
 - 推定タブで平均値と切片を推定に☑
 - 出力タブで標準化推定値に☑

※上記の作業をパス図の作成より前にやっても
プラグイン→Growth Curve Modelの操作で
すべてキャンセルされます

図5-7 パス図の作成 手順1/2

第7巻4章Amos資料
図4-3の分析参照



- ①プラグイン→
Growth Curve Model
- ②時点数を6
※ここまでは前章参照

- ③誤差分散の等値制約
を外しV1～V6に
- ④パス係数を
0, 1, パス3～パス6に



図5-7 分析のプロパティ

推定タブの平均値と切片を推定に☑

潜在成長モデルは、平均構造を含む分析なので☑が必要
プラグイン→ Growth Curve Modelの操作でこの☑は自動的に入るが念のため確認

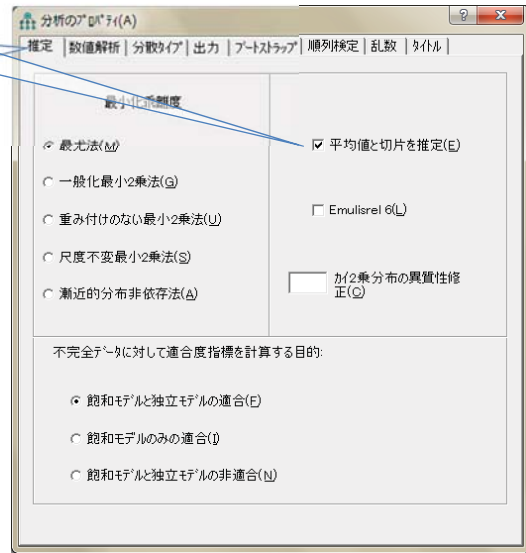
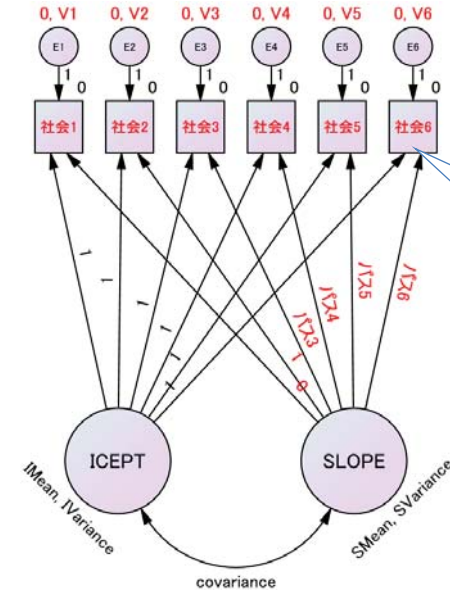


図5-7 パス図の作成手順2/2



変数名を流し込んで完成